

令和5年11月 発行

朝夕は肌寒さを感じる日もありますが、日中は11月とは思えない暖かさが続いていますね。

10月も沢山の先生方に研修会にご参加いただきました。ありがとうございました。研修会で得た学びを、今回もこの「いっぽだより」で皆さんと共有したいと思います。

～支援が必要な子どもの保護者の立場から考える園との関係～

発達障がいのある子どもの子育てを経験し、かつ相談支援に関する一定のトレーニングを受け、県の認定を受けた「ペアレントメンター」の5名の皆様からお話を聞かせていただきました。その後グループにわかれて話し合い、メンターさんからアドバイスをいただきました。(10月25日)

毎日「先生にまた何か言われるのではないかと迎えに行くのが苦痛だった。子どものいいところも見つけて伝えてほしい。

一番困っているのは子ども。困り感に対するでだてを共有したい。子どものことについて沢山話をしたい。

同じ思いをもつこの会に救われた。先生も保護者も一人で悩みを抱え込まないでほしい。

診断を受けて霧が晴れる人もいれば、なかなか受け入れられない人もおり、そのタイミングは様々。その人その人の状態をよく見ながら、気持ちに寄り添った支援をしてほしい。

診断がおりたことで、支援の方向性がみえたことにはホッとした。しかし、どこかで受け入れられない自分もおり不安で孤独だった。



本当は不安で不安でたまらない。不安な気持ちや頑張っている姿を認めてほしい。「お母さん、頑張っていますね」の一言がほしい。

【参加された先生方の感想】

- * 保護者との付き合いに自信がもてていなかった。その中で今回話を聞き「一人の子どもを共に育てている協力者と思って、お母さんに寄り添って」という言葉が胸に響いた。子どものよいところを見つけて、少しずつでも伝えていけたらと思う。
- * 「お母さんの話をたくさん聞いてあげることが一番の支援である」という話が印象的だった。お母さんの話に対して「答えなきゃ!」「伝えなきゃ!」という思いが保育者として一番に構えてしまうところだが、まずは「聞く」だけでも立派な支援につながる事がわかった。
- * 保護者に対しての見方が変わった。相手の思いを察し、受け止める気持ちをもって向き合っていきたい。
- * 保護者の気持ちに寄り添えるような保育者になりたいと強く思った。また、他園の取組など情報共有ができて良かった。

保育の出発点が「子ども一人一人を理解すること」であるように、一人一人の保護者を理解し、寄り添っていくこともまた同じように大切なことだと改めて感じました。言葉にするのは簡単ですが、なかなか難しいことではありますよね。グループ相談の中で『今日のピアス、可愛いですね』『髪切ったんですね。似合ってますよ』など、子どもとは全く関係のないことを話す中で距離が近くなる」と話された先生もいらっしゃいました。何気ない会話を繰り返したり、子どものよさを伝え続けたりすることで、言いにくいことが伝わりやすくなり、深い話ができるタイミングが訪れることもあります。今後も「子どもを共に育てる協力者」として信頼関係を築き、成長を共に喜び合っていけたらいいですね。

園内研修コーディネート第2弾 かたまち保育園さんの園内研修に参加させていただきました

かたまち保育園さんより「長崎大学の岩永竜一郎先生の発達に関するお話を全職員で聞いて、子どもとの関わりについて共通理解し、よりよい育ちにつなげたい」と園内研修コーディネートのご依頼があり、10月27日（金）に「発達障がいについての基礎知識と対応」について岩永先生よりご教授いただきました。注意や叱責で問題行動を抑え込むなど、周囲の間違った関わりから生じる可能性のある2次障がい（破壊的行動・不登校・非行・引きこもり）についても話され、私たち保育者の責任の重さを実感したところです。岩永先生が話された対応について、発達障がい児だけではなく定型発達児にも有効な関わり方を、以下に簡単にまとめてみました。

子どもの見方を変えるといいところが見えてくる

見方が変わると子どもの行動が変わる

～大人は叱り上手な褒め下手。褒めるポイントは…～

★1 叱ったら9褒めよう

★問題行動が起こった時ではなく、問題行動の逆を褒め、望ましい行動を具体的に言葉にしよう

ex:「(スプーンをよく投げる子が投げずに食べている時に)自分で上手に食べてるね」

「(乱暴に物を扱う子がすごく丁寧に扱ってなくても)壊さないように優しくしてくれてありがとう」

★やり始めたらすぐ褒め、実況中継してみよう。最初から100%を求めず25%できたらOK

ex:片付けを終わってからではなくやり始めに目を向け、以前よりも良い方向へ向かったという瞬間を逃さず褒める。

「片付ける物を見つけています。あ、見つけました！すごい！おもちゃを箱に入れました。きれいになってきました。昨日よりも上手にお片付けできています。嬉しいです」

★目標は全部ではなく、最後の一部から

ex:一斉活動の際、最初から最後まで参加することが難しい子には、最後の部分から一部参加させ、「最後までできた！」という達成感や満足感を味わえるようにする。

後日、原田園長先生から「職員は、気になる子どもの対応に苦慮しながらも、具体的に褒める保育をできる範囲から実践している姿が見られています。子どもの未来のために、これからも頑張っていければと思っています」と嬉しいお便りをいただき、私たちも大変励まされました。かたまち保育園の皆様、一緒に学ばせていただきありがとうございました！！



いっほ♡いっほ

～ポジティブ応援団～

「声かけの変換 ～あいまい言葉を見直そう～」

普段子どもにかけている言葉、伝わりやすい言葉や声のトーン、スピードを選択していますか？

- もうちょっと待って → 長い針が〇になるまで待ってね
- あとでね → 〇〇が終わったら一緒にしようね
- もうすしががんばって → あと〇回やってみようか
- はやくして → 長い針が〇になるまでにやってみようね
- ちゃんと片付けて → 積み木は積み木の箱の中に入れようね(写真などを貼っておくとわかりやすい)
- こっちに来て → 〇〇先生のところまでおいで
- 走りません！ → 歩こうね
- 危ない！ → 止まって

※「〇の針まで待って偉かったね」「最後までがんばったね」など、できた後の声かけも大切です。